

長野県小県郡真田町埋蔵文化財調査報告書第11集

# 町内遺跡発掘調査報告書II

——平成9年度試掘及び立会い等調査報告書——

山崎遺跡・真田氏本城跡  
東出早古墳・白樺荘前遺跡  
刷毛田古墳

1998・3

真田町教育委員会

真田町「町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 正誤表

訂正箇所	誤	正
6 頁 22行目	隣 <u>倉</u> 土	隣 <u>植</u> 土
6 頁 位置図中	下の三角印	(抹消)
6 頁 12行目	西出早(2基)、	西出早 <u>古墳群</u> (2基)、
6 頁 14行目	<u>2</u> 基の古墳とも	<u>古墳</u> の
報告書抄録中	1998年 3月 <u>31</u> 日	1998年 3月 <u>25</u> 日

## 例 言

- 1 本書は長野県小県郡真田町における埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に伴う、平成9年度の試掘調査並びに立会い調査等の報告書である。
- 2 調査は真田町教育委員会が行った。なお、調査の費用は町費で対応した。
- 3 事務局及び調査の体制は以下のとおりである。

(事務局)	教育長	三井 俊男 (平成9年5月20日退任)
真 田 町		大塚 貢 (平成9年6月1日着任)
教育委員会	教育次長	芳澤 孝夫 (平成9年5月31日退任)
		大久保文雄 (平成9年6月1日着任)
	社会教育係長	大塚 久文
	社会教育係・町誌編纂室	和根崎 剛

(調査体制)

担当者	和根崎 剛 (真田町教育委員会主事、長野県考古学会会員)
調査補助員	相馬 敬子 (真田町臨時職員)
調査参加者	一之瀬貞美・岡嶋 庄平・小林みよ子・山崎 和子 (社)上田地域シルバー人材センター)
- 4 本文の執筆は和根崎 剛が行った。
- 5 調査に係る資料は真田町教育委員会が保管している。
- 6 調査にあたって下記の方々・機関のご指導・ご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。  
上田建設事務所・(株)NTTファシリティーズ長野営業所・尾見 智志・(株)軽井沢プロジェクト・  
(株)真田町土地開発公社・長野県教育委員会文化財保護課 (順不同・敬称略)
- 7 土層の色調は、「新版 標準土色帖」に基づいている。

## 目 次

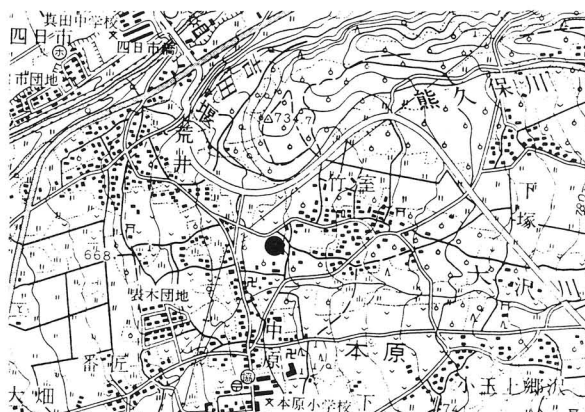
### 例言・目次

第1章 試掘調査 .....	1
(1) 山崎遺跡 .....	1
第2章 立会い調査・確認調査 .....	5
(1) 真田氏本城跡 .....	5
(2) 東出早古墳 .....	6
(3) 白樺荘前遺跡 .....	7
(4) 刷毛田古墳 .....	7

# 第1章 試掘調査

## 1 やまぎいせき 山崎遺跡（遺跡番号93）

所在地 真田町大字本原字山崎1557-1  
事業主体 軽井沢プロジェクト株式会社  
事業名 分譲住宅の建設に伴う宅地造成  
調査期間 平成9年4月2日～4月4日  
調査面積 約100㎡  
協議関係者 軽井沢プロジェクト株式会社・  
真田町役場情報政策課・  
真田町教育委員会



位置図

## 1 遺跡の環境と経過

山崎遺跡は真田町大字本原字山崎に所在し、標高700m前後を測る扇状地の末端部に位置する。以前から縄文土器や石器、土師器が多量に表採され、遺構が密度濃く存在していることが予想される。

今回、山崎遺跡の包蔵地隣接地において、民間業者が行う宅地造成が計画された。分布地図上は包蔵地指定範囲外であったが、遺物が表採されたため、事業者と協議を行った。その結果、造成予定地全域で10～150cmの盛り土を行うことが判明し、次善の策ではあるが、盛り土保存について関係者で協議した。盛り土が30cmに満たない部分があったため、全域で30cm以上の盛り土が可能か事業者に協力を求めたところ、了承されたため、遺構を盛り土保存することとした。盛り土保存という方法をとるため、造成前に試掘調査を行い、地中の遺構の状況と密度を調査することとした。

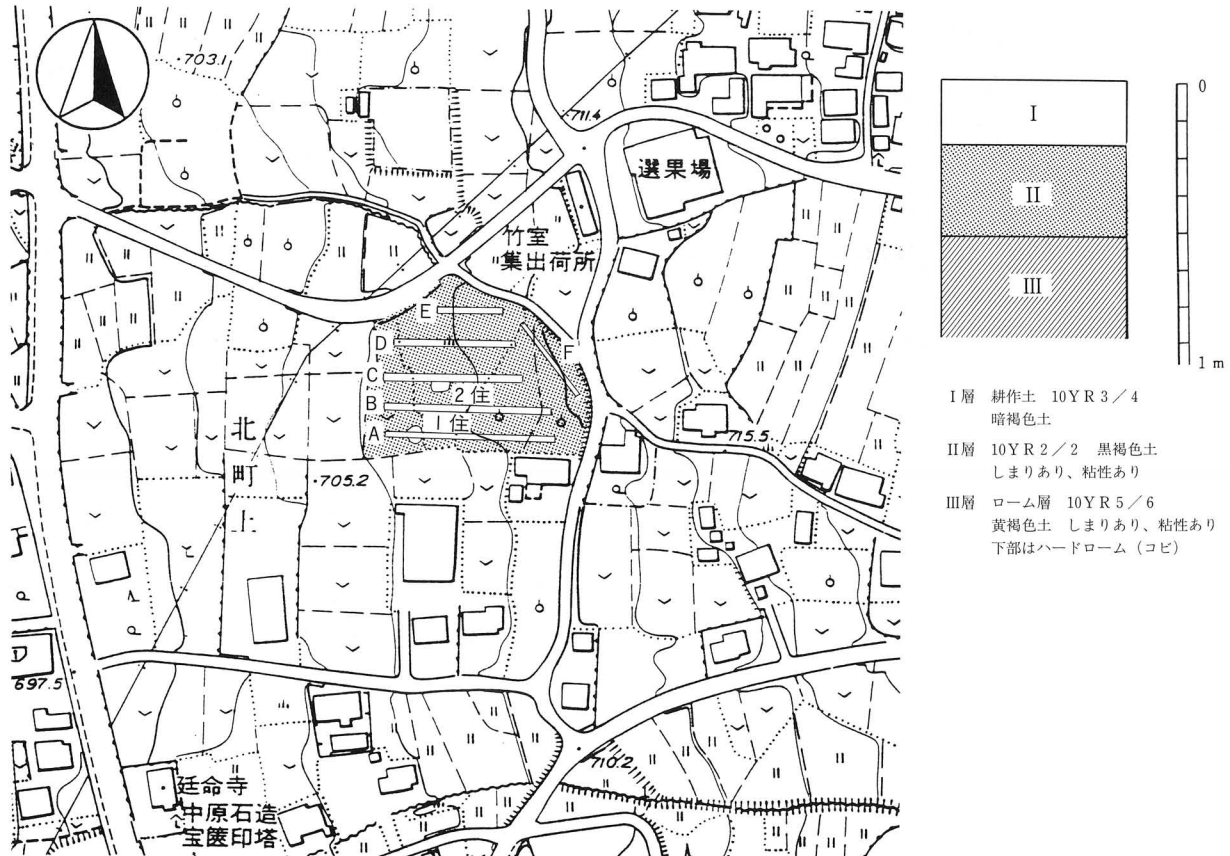
## 2 調査の結果

調査は3日間で行われ、バックホーで幅80cmのトレンチを掘り、遺構が確認された場合には周囲の掘り下げを行った。なお、トレンチは約5m間隔で6本設定し（第1図）、ローム層まで掘り下げた。その結果、Aトレンチが1号住居址、Cトレンチが2号住居址をそれぞれ貫通したため、その周囲を掘り下げ、遺構の調査を行った。その他のトレンチでは、遺構は確認できなかった。試掘という性格を越えた調査となったことは、今後の課題としたい。

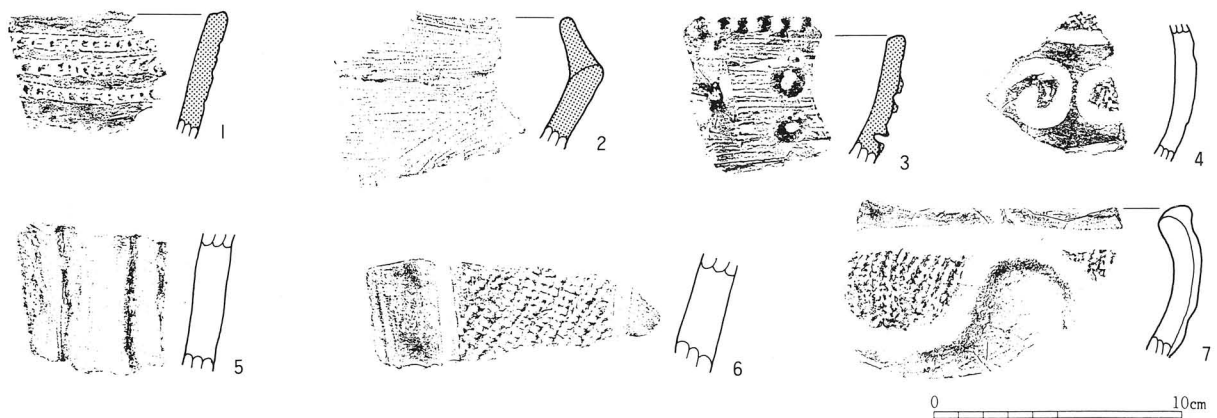
トレンチ出土遺物（第2図）は縄文時代前期の土器（有尾式等）、中期の土器（加曾利E式等）、縄文時代の石器（打製石斧・石鏃・磨石等）、古墳時代後期の土師器（坏・甕・高坏等）、平安時代の土師器（坏・甕・皿等）・須恵器（坏・壺・甕等）などがみられる。



Aトレンチと1号住居址（東から）



第1図 山崎遺跡トレンチ設定図・基本土層図



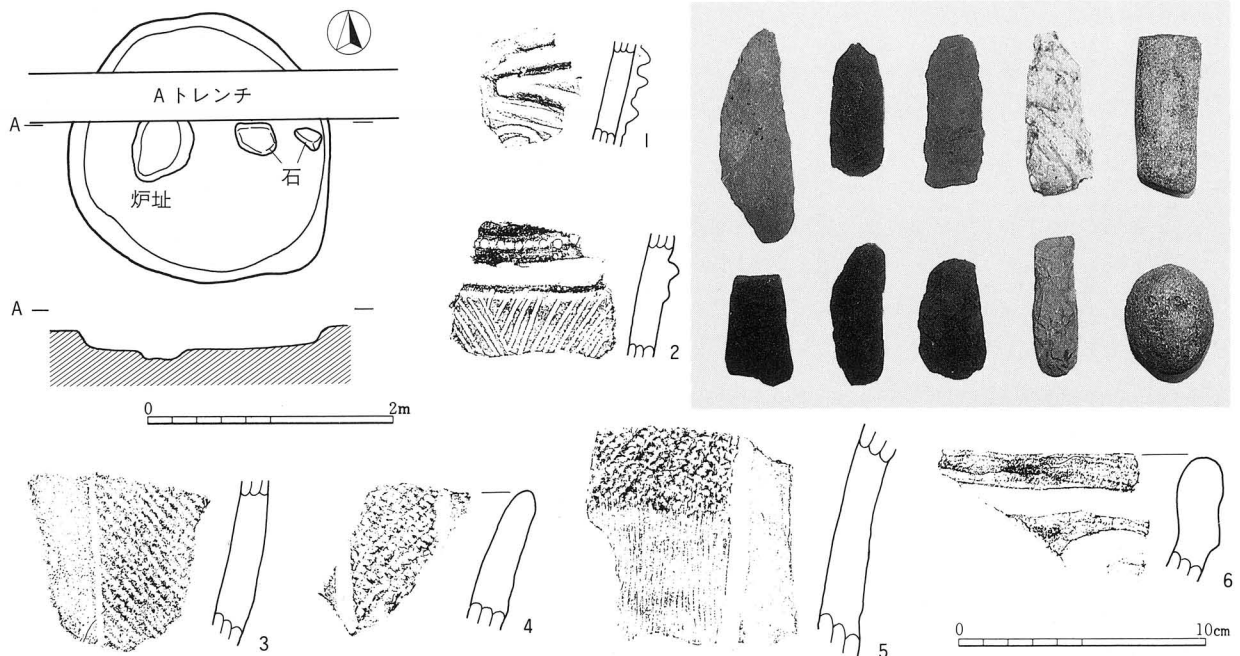
第2図 トレンチ出土土器 (1/3)

(I) 1号住居址 (SBI) (第3図)

規模・形態等 直径2.9mの円形を呈する。壁高は15~25cm前後、床面は部分的に硬化していた。覆土は黒色土で多量の縄文中期土器片、および石器が含まれていた。

施設 精査したが、柱穴は検出できなかった。中央に炉址とみられる施設が確認され、若干の焼土を検出した。

出土遺物と時期 当住居址出土土器は加曾利E式土器が主体となっているので、縄文時代中期後葉に比定される。



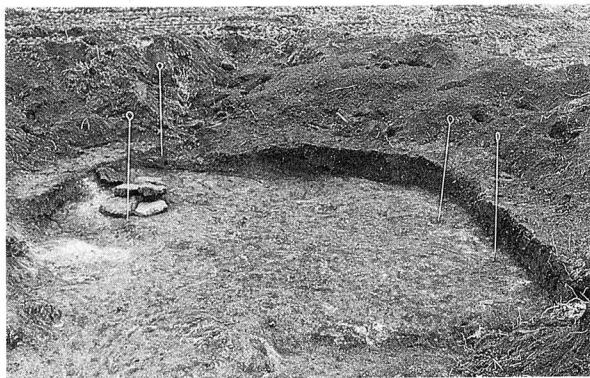
第3図 1号住居址 (1/80) 及び出土遺物 (1/3)

(2) 2号住居址 (S B 2) (第4・5図)

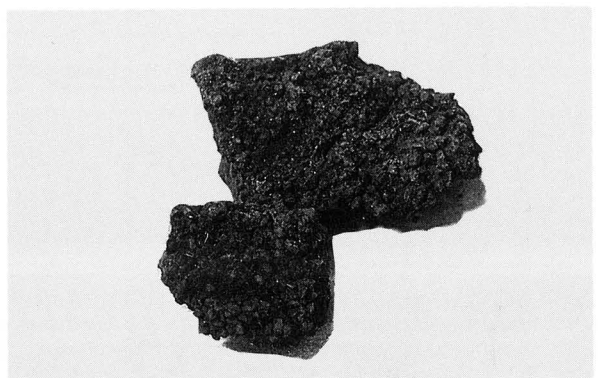
規模・形態等 一辺3.8mの方形を呈する。壁高は15~25cm前後、床面は硬化していた。焼失住居と思われ、覆土中から多量の焼土や炭化物粒が確認された。床面付近から焼土の広がりや炭化材が検出され、穀物粒や鉄斧の柄の一部が炭化して遺存していたこと、また、完形土器の出土量の多さから焼失住居と判断した。

施設 カマドの東側から配石遺構が検出され、配石遺構に伴い、数点の土師器・須恵器が正位の状態で見出された(第4図)。用途は不明であるが、興味深い事例である。

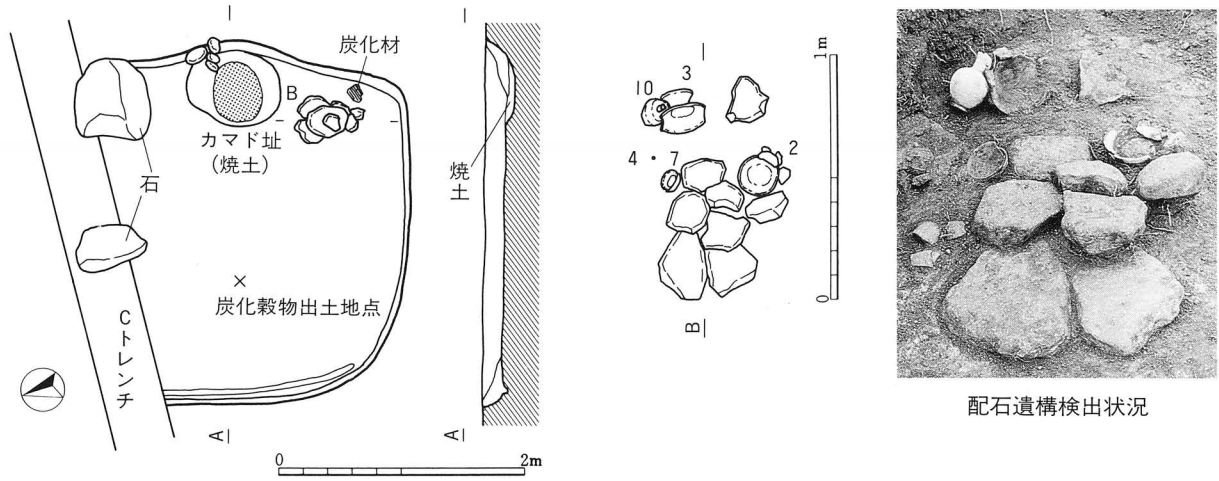
出土遺物と時期 出土した土師器や須恵器から平安時代(9世紀末~10世紀初)に比定される。墨書土器が3点検出され、中でも字の判別できる「秋」と「寺」が目される。「秋」は現在では使用されていない文字であるが、「穢れ」を意味する文字らしい。「寺」は遺跡周辺に寺が存在したことを予想させる貴重な資料である。鉄製品(刀子、紡錘車、斧、かすがい)と、炭化した穀物粒の出土が特記される(第5図)。



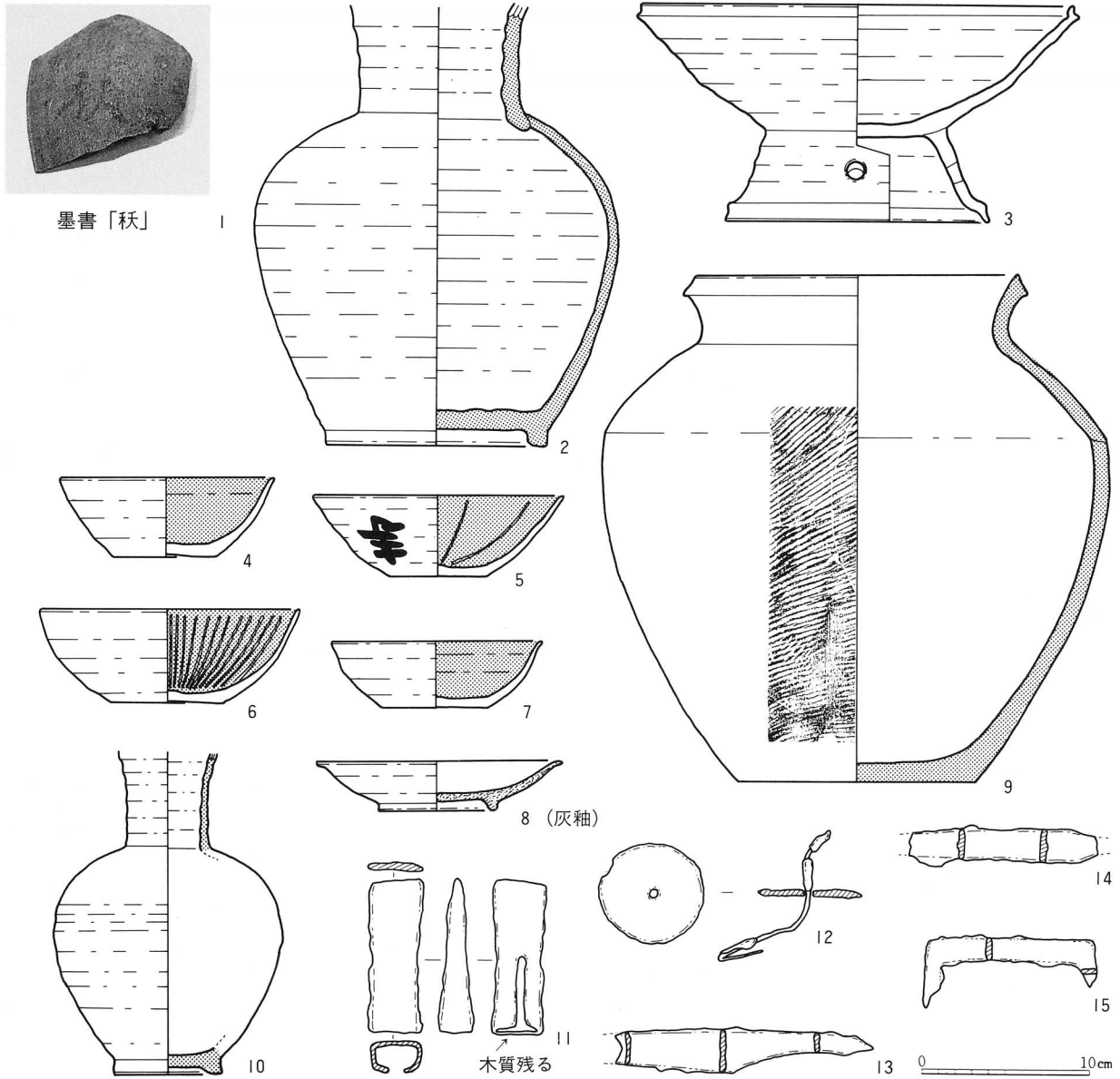
2号住居址(北から)



出土した炭化穀物



第4図 2号住居址 (1/80) 及び配石遺構 (1/40)

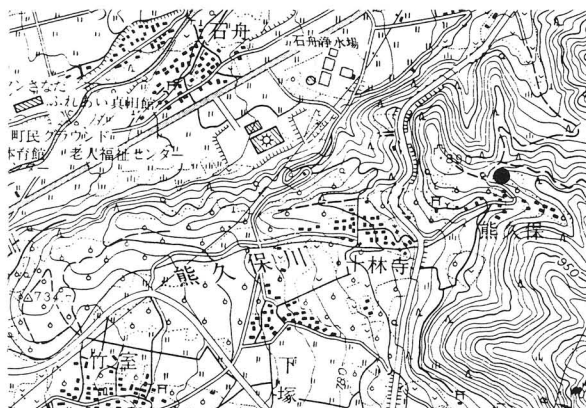


第5図 2号住居址出土遺物 (1/4)



## 第2章 立会い調査・確認調査

- 1 さなだ しほんじょうあと 真田氏本城跡 (遺跡番号191・町指定史跡)
- 所在地 真田町大字長字十林寺5039 他
- 事業主体 株式会社NTTファシリティーズ長野  
営業所
- 事業名 NTT移動通信網株式会社真田無線  
基地局の建設
- 調査期間 平成9年5月13日～5月17日
- 調査面積 555.32㎡ (工事面積)
- 協議関係者 株式会社NTTファシリティーズ長野  
営業所・真田町役場情報政策課・観光  
商工課・真田町教育委員会



位置図

### 1 遺跡の環境と経過

真田氏本城跡は、真田町大字長字十林寺に所在し、真田氏城跡群の要の一つとして町史跡に指定されている。中世の山城として登録され、廓、段郭等の遺構がみられる。遺物の出土は知られていない。周辺は果樹園、畑地として利用され、一部は公園化されているが、地形の大きな改変はされていない。

この度、NTT移動通信網株式会社による携帯電話真田無線基地局の建設が計画され、事業主から真田町教育委員会に該当地の埋蔵文化財の有無について照会があった。当初、町指定史跡内に建設が計画されたため、関係者で協議を行った。その結果、「施設建設は史跡指定範囲外とする」、「掘削時に立会い調査を実施し、遺構・遺物が確認された場合は試掘調査を実施する」ことで合意し、町教育委員会が掘削、整地工事の際に立会い調査を実施した。

### 2 調査の結果

掘削工事の前に周辺の地形踏査を行い、山城に伴う施設の有無を調査したが、発見には至らなかった。

立会い調査は5日間行った。以前は畑として使用していたとのことであり、20cm程の耕作土・腐食土層に続いてローム層が現れた。遺構や遺物は発見されなかった。



現場の状況

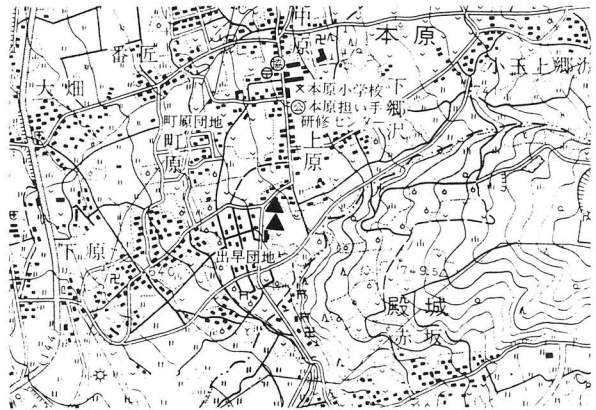


地層の状況



ひがしいずはやこふん  
2 東出早古墳 (遺跡番号 )

所在地 真田町大字本原字東出早1925-1  
事業主体 (財)真田町土地開発公社  
事業名 出早団地第3期造成工事  
調査期間 平成9年9月5日～9月10日  
調査面積 約180㎡ (工事面積)  
協議関係者 (財)真田町土地開発公社・  
長野県教育委員会文化財保護課・  
真田町教育委員会



位置図

### 1 遺跡の環境と経過

東出早古墳は真田町大字本原字東出早に所在し、標高700m前後を測る扇状地の末端部に位置する。周辺は小円墳が多数存在しており、この東出早古墳の他、町下古墳群(5基)、九久館古墳群(2基)、西出早(2基)、桜林古墳群(2基)などが密集している。今回、東出早古墳を含む地域において、(財)真田町土地開発公社が行う宅地造成が計画され、町教育委員会に埋蔵文化財の有無について照会があった。調査の結果、2基の古墳とも明確な位置が不明となっており、開発区域にかかる可能性があったため、協議を行い、事前の確認調査を実施することで合意した。

### 2 調査の結果

調査は実質2日間で行われ、古墳の現況と位置を確認するために行われた。

古墳は後世に積み上げられた石が混じっているものの、本来の石積みも一部残っている。天井石が移動しており、石室は既に開口しているものと考えられる。過去の遺物の出土は知られていない。今回の調査では遺物は発見されなかったが、古墳の位置と現況を把握することができた。

調査の結果、古墳は団地造成区域には含まれないことが判明し、現状のまま保存できることとなった。ただし、近接して団地造成が行われるので、今後の影響が懸念される。

本原地区は宅地化が著しく、今後も埋蔵文化財全般にわたって注意していく必要があろう。



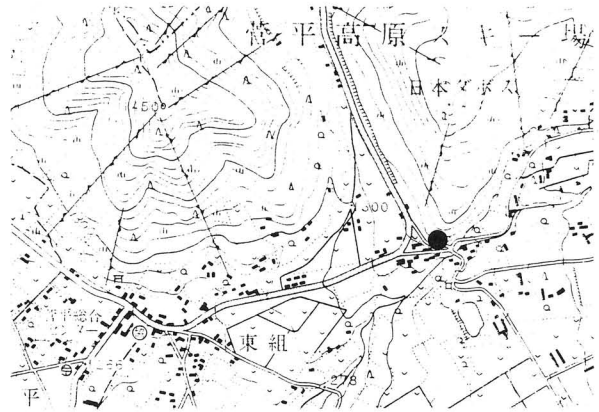
東出早古墳現況



石室天井石

3 <sup>しらかばそうまえいせき</sup> 白樺荘前遺跡 (遺跡番号24)

所在地 真田町大字長字菅平  
事業主体 上田建設事務所  
事業名 県道改良(バイパス)工事  
調査期間 平成9年10月6日  
調査面積 約50㎡(工事面積)  
協議関係者 上田建設事務所・  
長野県教育委員会文化財保護課・  
真田町教育委員会



位置図

### 1 遺跡の環境と経過

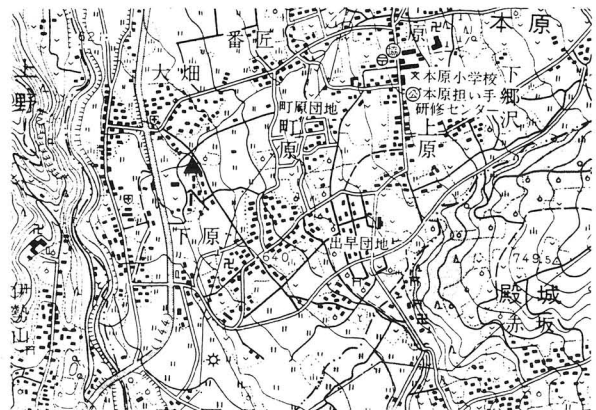
白樺荘前遺跡は真田町大字長字菅平に所在し、標高1,300m前後を測る高原に位置する。付近は駐車場やスキー場のリフト建設の際に大きく地形を変えられている。その際の造成の折、縄文晩期・氷式土器が出土したと記録されているが、遺物の所在は明らかではない。今回、包蔵地内において、上田建設事務所による県道改良工事が計画された。包蔵地範囲内ではあったが、地形が大きく変えられているため、工事に伴い、立合い調査を行うこととした。

### 2 調査の結果

調査の結果、工事範囲全域で既に遺物包含層が失われていることが判明した。

4 <sup>はけたこふん</sup> 刷毛田古墳 (遺跡番号113)

所在地 真田町大字本原字刷毛田  
事業主体 (財)真田町土地開発公社  
事業名 刷毛田団地第3期造成事業  
調査期間 平成9年11月28日  
協議関係者 (財)真田町土地開発公社・  
長野県教育委員会文化財保護課・  
真田町教育委員会



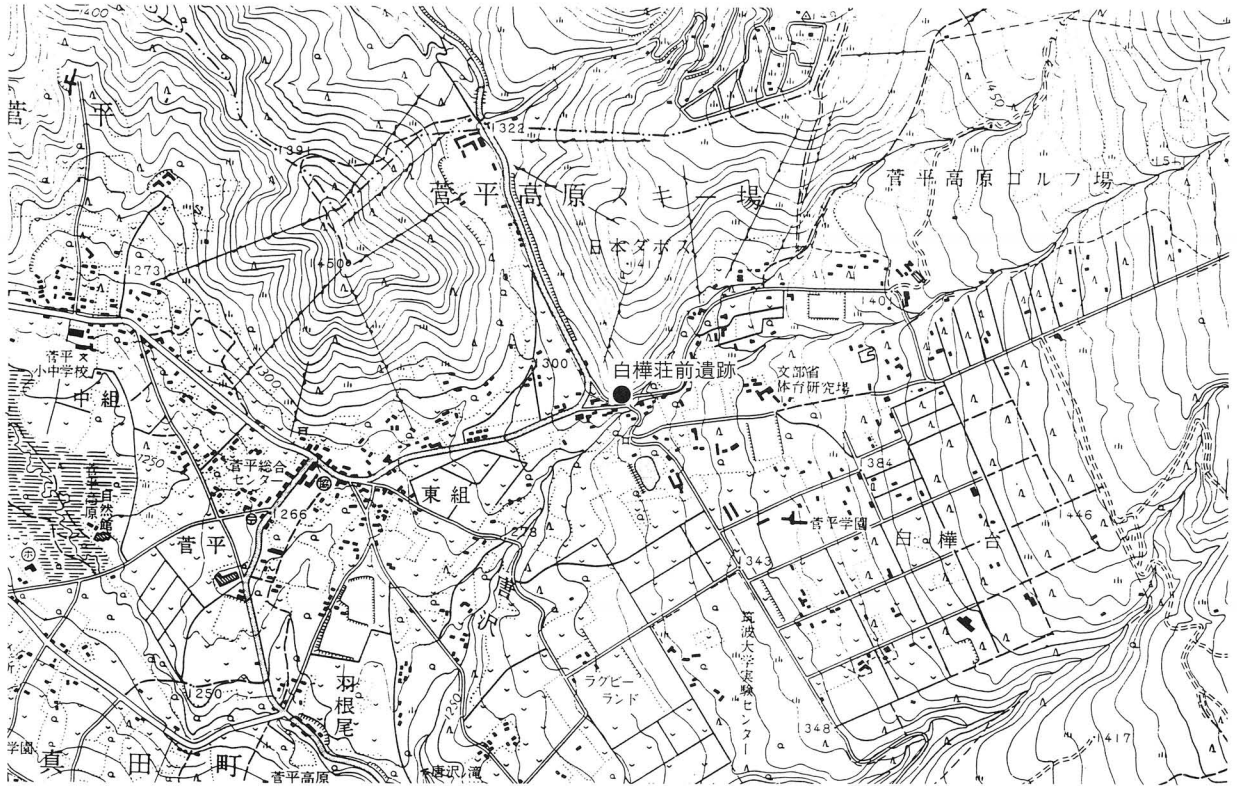
位置図

### 1 遺跡の環境と経過

刷毛田古墳は真田町大字本原字刷毛田に所在し、標高650m前後を測る扇状地の末端部に位置する。今回、刷毛田地区にて宅地造成の計画があり、(財)真田町土地開発公社から教育委員会に埋蔵文化財の有無について照会があった。当町の埋蔵文化財台帳では既に埋滅とされていたため、確認調査を実施することとした。

### 2 調査の結果

確認調査の結果、古墳らしき石組みや土盛りは発見できなかった。聞き取りによれば、古墳は今回の造成範囲よりも北方にあったといい、その周辺は宅地となっており、既に破壊されていると考えられる。



第6図 遺跡の位置と周辺の地形（その1・菅平）（1：25,000）



第7図 遺跡の位置と周辺の地形（その2・長、本原）（1：25,000）

## 真田町埋蔵文化財発掘調査報告書

- 1973 第1集 『日向畑遺跡』 中世の墳墓群の調査。五輪塔などが出土。
- 1975 第2集 『雁石・藤沢』 縄文後晩期の配石遺構、石棺墓を検出。称名寺式土器の優品、ミニチュア土器、土製耳飾り。(品切)
- 1977 第3集 『山本畑遺跡緊急発掘調査報告書』 平安時代の住居址2棟。須恵器の耳皿。(品切)
- 1982 第4集 『真田氏城跡群』 真田氏本城、横尾城などの概要調査報告書。(品切)
- 1990 第5集 『四日市遺跡』 縄文中期後葉、平安時代の集落址。加曾利E式土器、唐草文系土器。
- 1992 第6集 『真田氏館跡』 真田氏館跡の調査。厩跡、土塁等を確認。
- 1996 第7集 『四日市遺跡II』 縄文前期中葉、中期後葉、古墳時代後期、平安時代の集落址。関山式土器、块状耳飾り、加曾利E式土器、唐草文系土器。花積下層式土器の搬入品。古墳時代後期の一括資料など。
- 1996 第8集 『境田遺跡・西田遺跡』 古墳時代後期、平安時代の集落址。石製模造品、石組の煙道。
- 1997 第9集 『四日市遺跡III』 縄文前期中葉、古墳時代後期、平安時代の集落址。有尾式土器、諸磯a式土器、北白川下層II式土器、大型の块状耳飾りなど。
- 1997 第10集 『町内遺跡発掘調査報告書I』 平成8年度の試掘・立会い調査報告書。原谷地B・C遺跡、南荒井遺跡、町内遺跡現況確認調査。
- 1998 第11集 『町内遺跡発掘調査報告書II』 (本書)

---

---

## 町内遺跡発掘調査報告書II

—平成9年度試掘及び立会い等調査報告書—

1998年3月25日 発行

編集 真田町教育委員会

発行 真田町教育委員会

印刷 ほおずき書籍株式会社

---

---

## 報告書抄録

ふりがな	ちょうないせきはくつちょうさほうこくしょ に		
書名	町内遺跡発掘調査報告書II		
副書名	—平成9年度試掘及び立会い等調査報告書—		
巻次			
シリーズ名	真田町埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ番号	第11集		
著者名	和根崎 剛		
編集機関	真田町教育委員会 ☎0268(72)2655 <a href="http://www.sanada.or.jp/">http://www.sanada.or.jp/</a>		
所在地	㊦ 386-2292 長野県小県郡真田町大字長7199-1		
発行年月日	1998年3月31日	印刷	ほおずき書籍株式会社 長野市柳原2133-5

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまぎいせき 山崎遺跡	ちいさがた 長野県小県 ぐんさなだまち 郡真田町大字 もとはら やまぎき 本原字山崎		93			1997年 4月2日 ～ 4月4日	100m <sup>2</sup>	分譲住宅建設
さなだしほんじょうあと 真田氏本城跡	おさ 大字長字 じゅうりんじ 十林寺		191			5月13日 ～5月17日	555.32m <sup>2</sup>	携帯電話無線 基地局建設
ひがしいずはやこふん 東出早古墳	もとはら 大字本原字 ひがしいずはや 東出早					9月5日 ～9月10日	180m <sup>2</sup>	住宅団地造成
しろかばらうまえいせき 白樺荘前遺跡	おさ 大字長字 すがだいら 菅平		24			10月6日	50m <sup>2</sup>	道路バイパス 工事
はけたこふん 刷毛田古墳	もとはら 大字本原字 はけた 刷毛田		113			11月28日	—m <sup>2</sup>	住宅団地造成

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山崎遺跡	包蔵地	縄文中期 平安	住居址 (縄1・平1)	縄文土器・石器・土師 器・須恵器・鉄器・ 炭化穀物	表採・試掘調査を実施
真田氏本城跡	城館跡	中世	検出されず	検出されず	立会い調査を実施
東出早古墳	古墳	古墳	天井石を確認	検出されず	確認調査を実施
白樺荘前遺跡	包蔵地	縄文	既に破壊	検出されず	立会い調査を実施
刷毛田古墳	古墳	古墳	既に破壊	検出されず	確認調査を実施